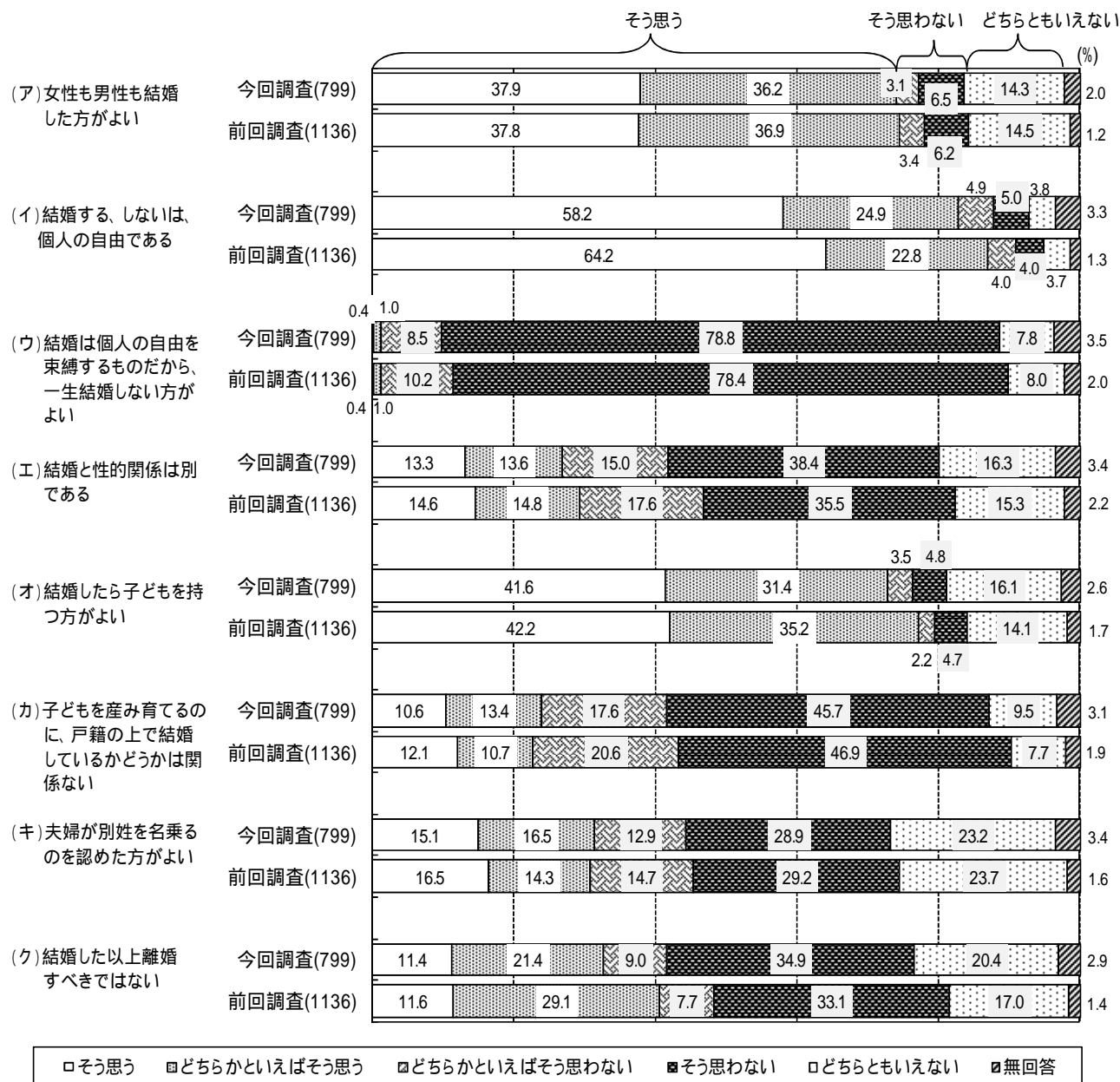


家庭生活

3. 家庭生活

(1) 結婚についての考え方

問3. あなたは、結婚について、次の(ア)～(ク)の考え方をそれぞれどう思いますか。(ア)～(ク)それぞれについて、一番近い考えの番号ひとつにをつけてください。



結婚、離婚についての考え方を聞いたところ、『そう思う』と回答した割合は「女性も男性も結婚した方がよい」(74.1%)、「結婚する、しないは個人の自由である」(83.1%)、「結婚したら子どもを持つ方がよい」(73%)で高くなっている。

【前回調査(平成21年)との比較】

平成21年に実施した調査と比較すると、「結婚した以上離婚すべきではない」で『そう思う』と回答している割合(前回40.7%、今回32.8%)は7.9ポイント減少している。

家庭生活

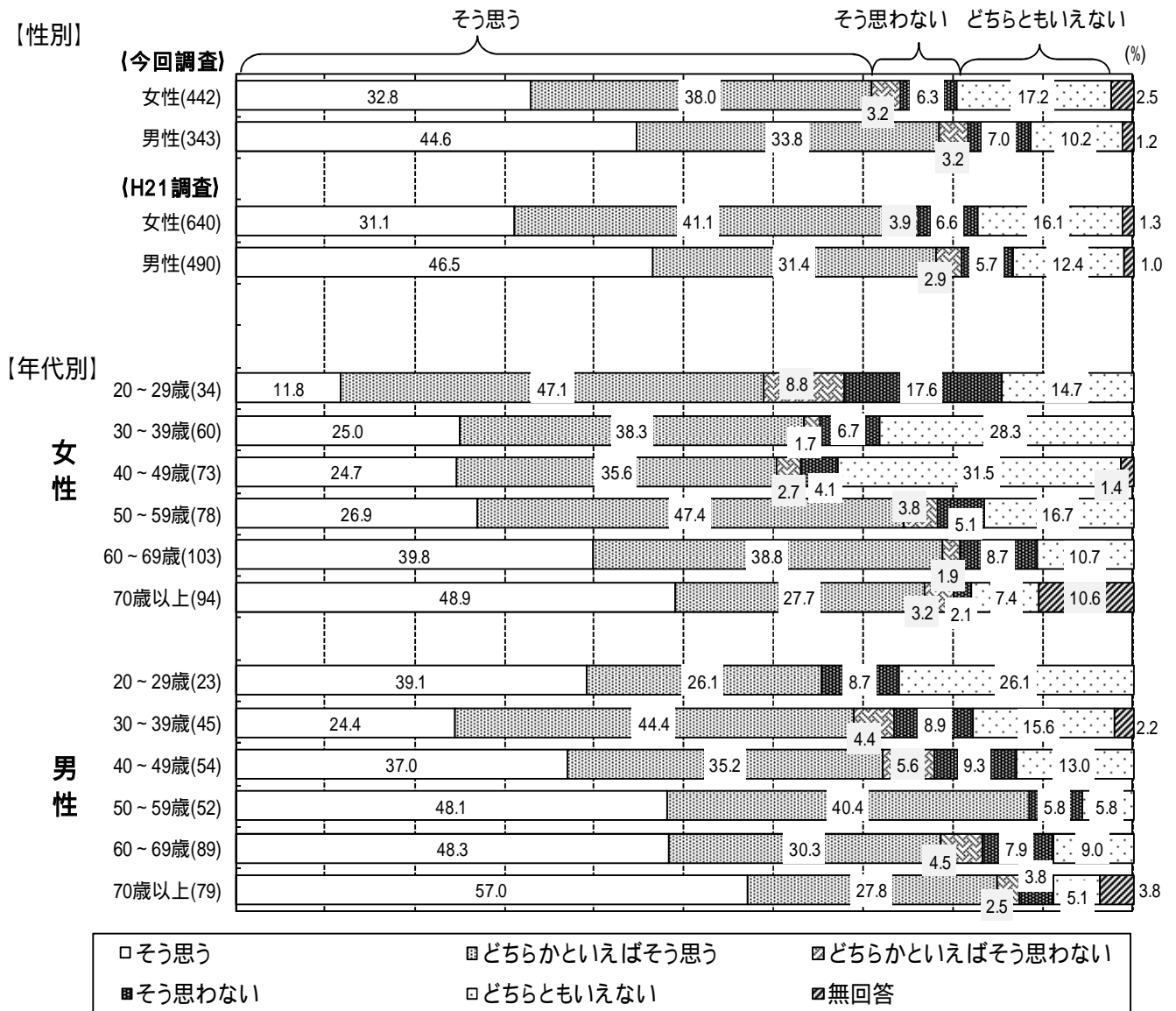
(ア) 女性も男性も結婚した方がよい

女性の70.8%、男性の78.4%が『そう思う』と回答しており、男性の方が『そう思う』と回答している割合が高くなっている。

平成21年度の調査と比べて、『そう思う』とした回答した割合は、男女とも大きくは変化していない。

[年代別]

全年代で『そう思う』と回答した割合が5割を超えているが、50代男性は『そう思う』の割合が88.5%で、男女、全年代の中で最も高い。20代は、男性も女性も『そう思う』(女性58.9%、男性65.2%)とした回答の割合がそれぞれ全年代の中で最も低くなっている。



家庭生活

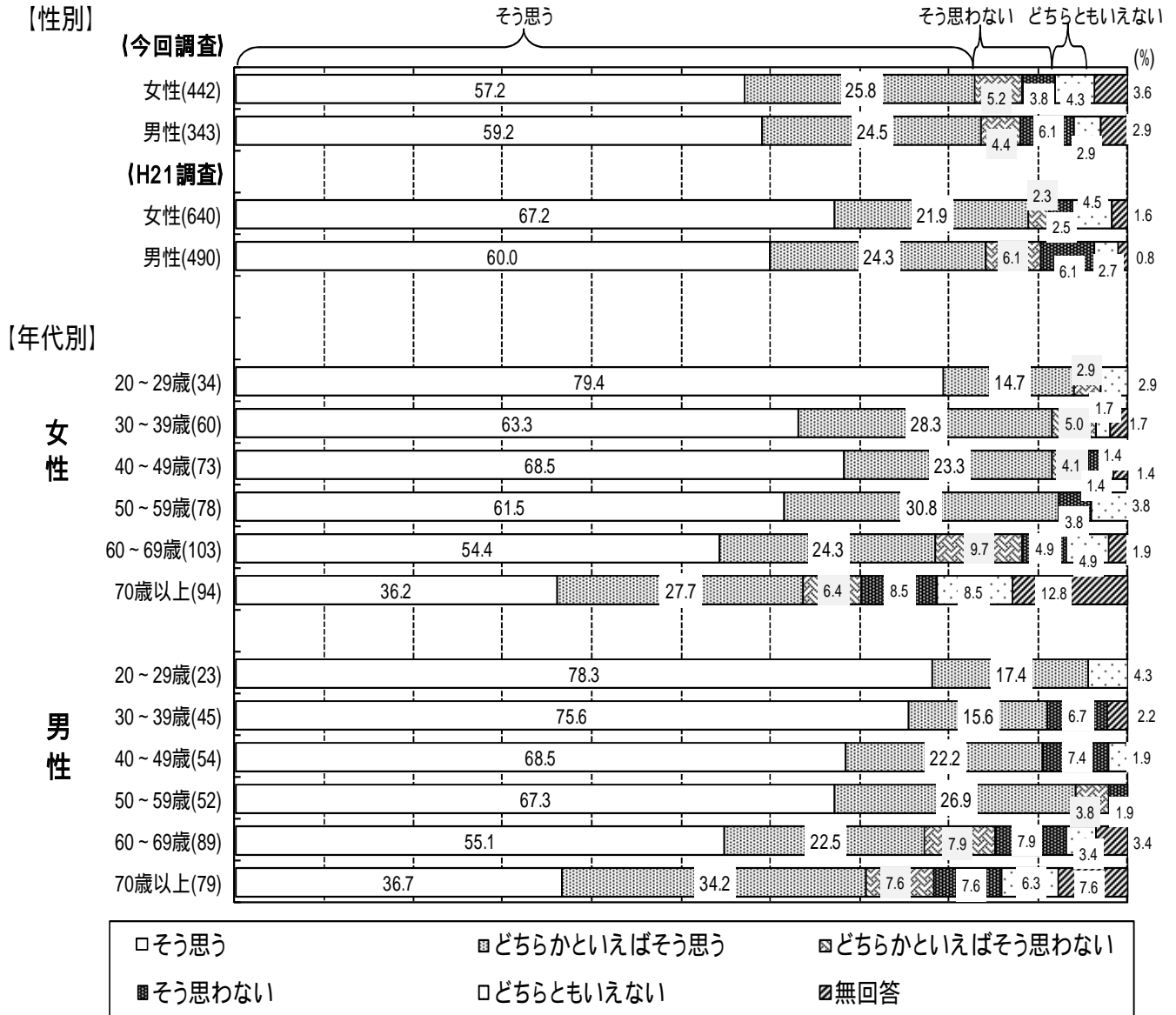
(イ) 結婚する、しないは、個人の自由である

女性(83.0%)も男性(83.7%)も『そう思う』と回答している割合が圧倒的に高い。

平成 21 年度の調査と比べると、『そう思う』と回答している割合は、男性ではほとんど変化していないが、女性では6.1ポイント低くなっている。

【年代別】

男女ともに若い年代ほど『そう思う』と回答している割合が高く、男女とも 20 代から 50 代については 9 割以上が『そう思う』と回答している。



家庭生活

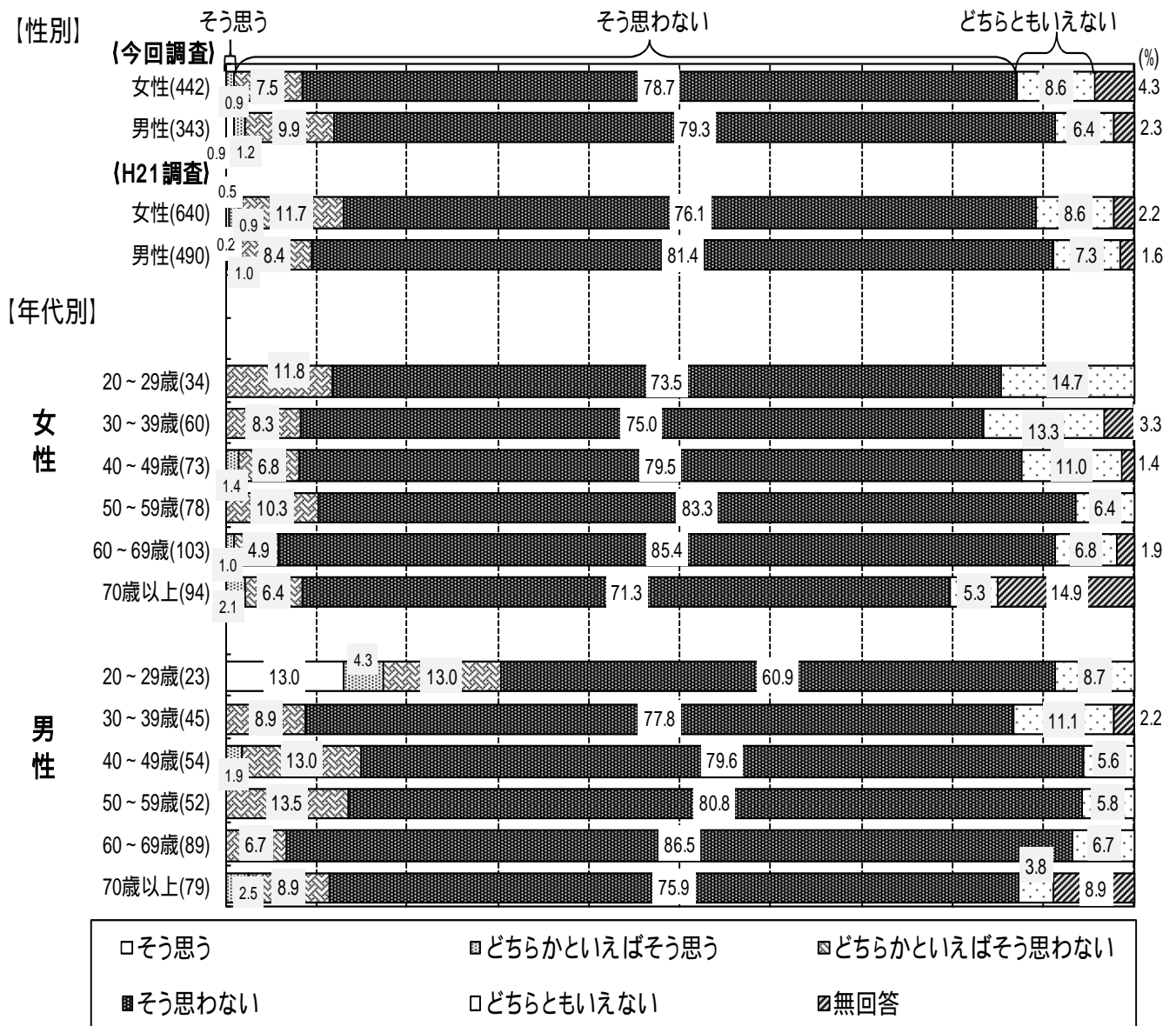
(ウ) 結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しない方がよい

女性の 86.2%、男性の 89.2%が『そう思わない』と回答しており、『そう思う』(女性 0.9%、男性 2.1%)はわずかとなっている。

平成 21 年度調査と比べると、男女とも『そう思わない』と回答した割合も、『そう思う』と回答した割合もほとんど変化していない。

【年代別】

男女ともすべての年代で『そう思わない』と回答している割合が7割を超えており、中でも男性の50代が男女全年代の中で94.3%と最も高くなっている。



家庭生活

(工) 結婚と性的関係は別である

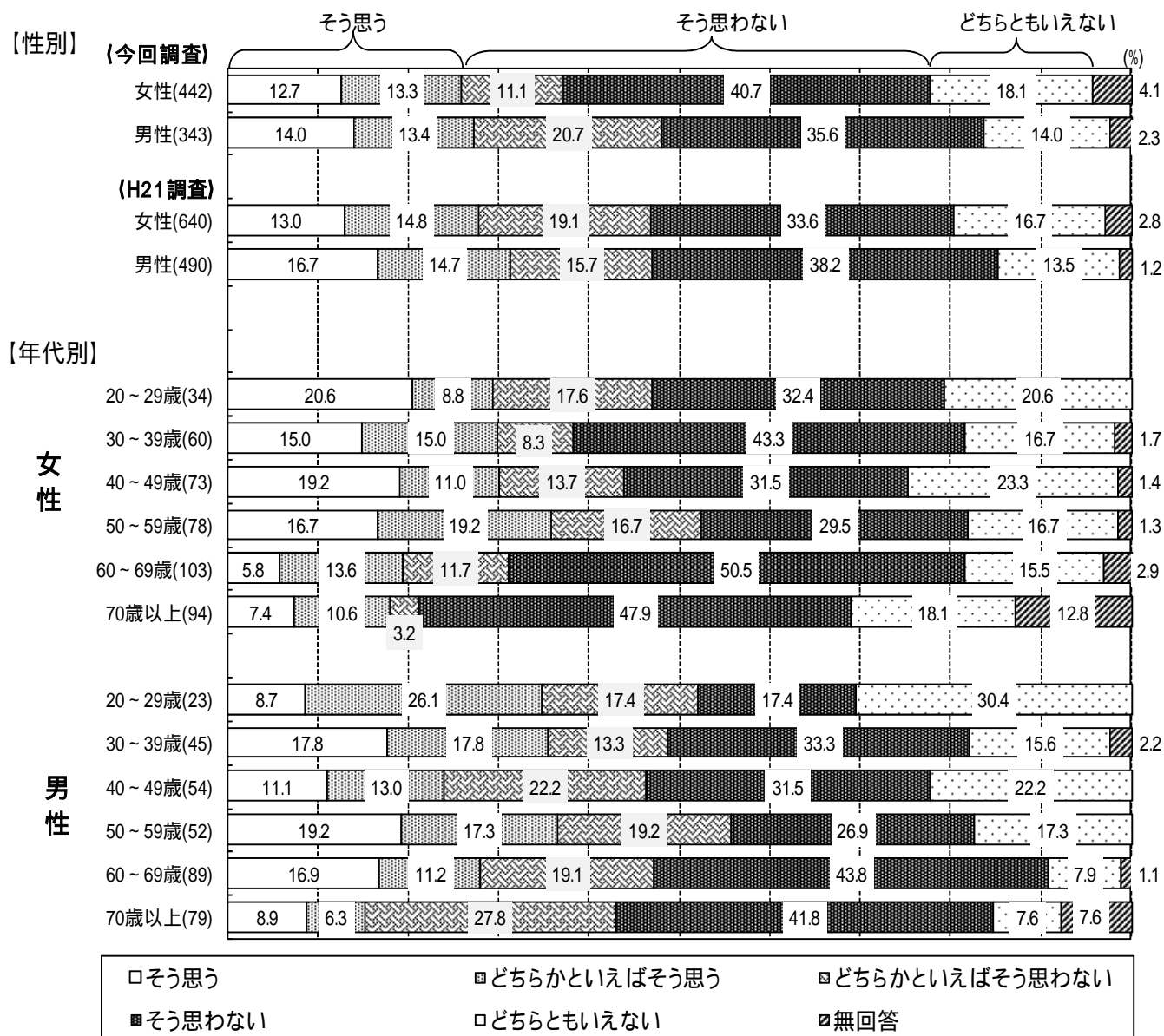
男女とも『そう思わない』(女性51.8%、男性56.3%)が『そう思う』(女性26.0%、男性27.4%)を上回っている。
 なお、『そう思わない』は、男性が女性を4.5ポイント上回っている。

平成21年調査と比べると、『そう思う』と回答した割合が男女とも若干低くなっている。

[年代別]

20代男性をのぞいて『そう思わない』と回答している割合が最も高いが、20代男性では『そう思う』と『そう思わない』どちらも34.8%で拮抗している。

また、20代では『そう思わない』の割合が男性は34.8%に対し、女性50.0%と15.2ポイント高くなっており、他の年代に比べ意識差が顕著となっている。



家庭生活

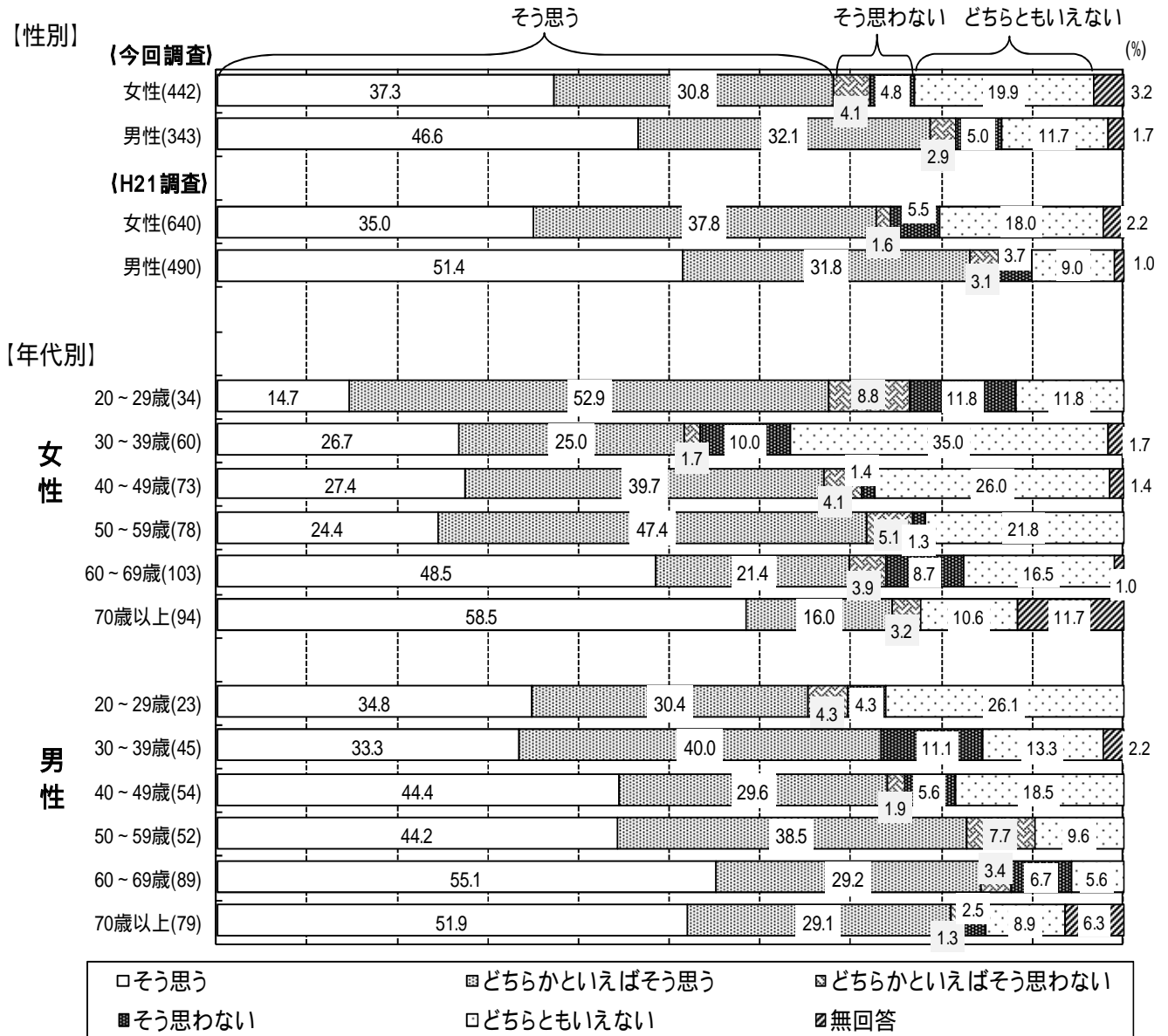
(オ) 結婚したら子どもを持つ方がよい

女性の68.1%、男性の78.7%が『そう思う』と回答しており、男性が『そう思う』と回答している割合は、女性より10.6ポイント高くなっている。

平成21年度調査と比べると、『そう思う』と回答している割合は男女とも低くなっている。

【年代別】

20代をのぞいて、男性の方が『そう思う』と回答している割合が高い。女性では、『そう思う』と回答している割合は30代で51.7%と最も低く、70歳以上は74.5%と最も高くなっている。男性では、『そう思う』と回答している割合は20代が65.2%で最も低く、50代以上ではいずれも8割を超えている。



家庭生活

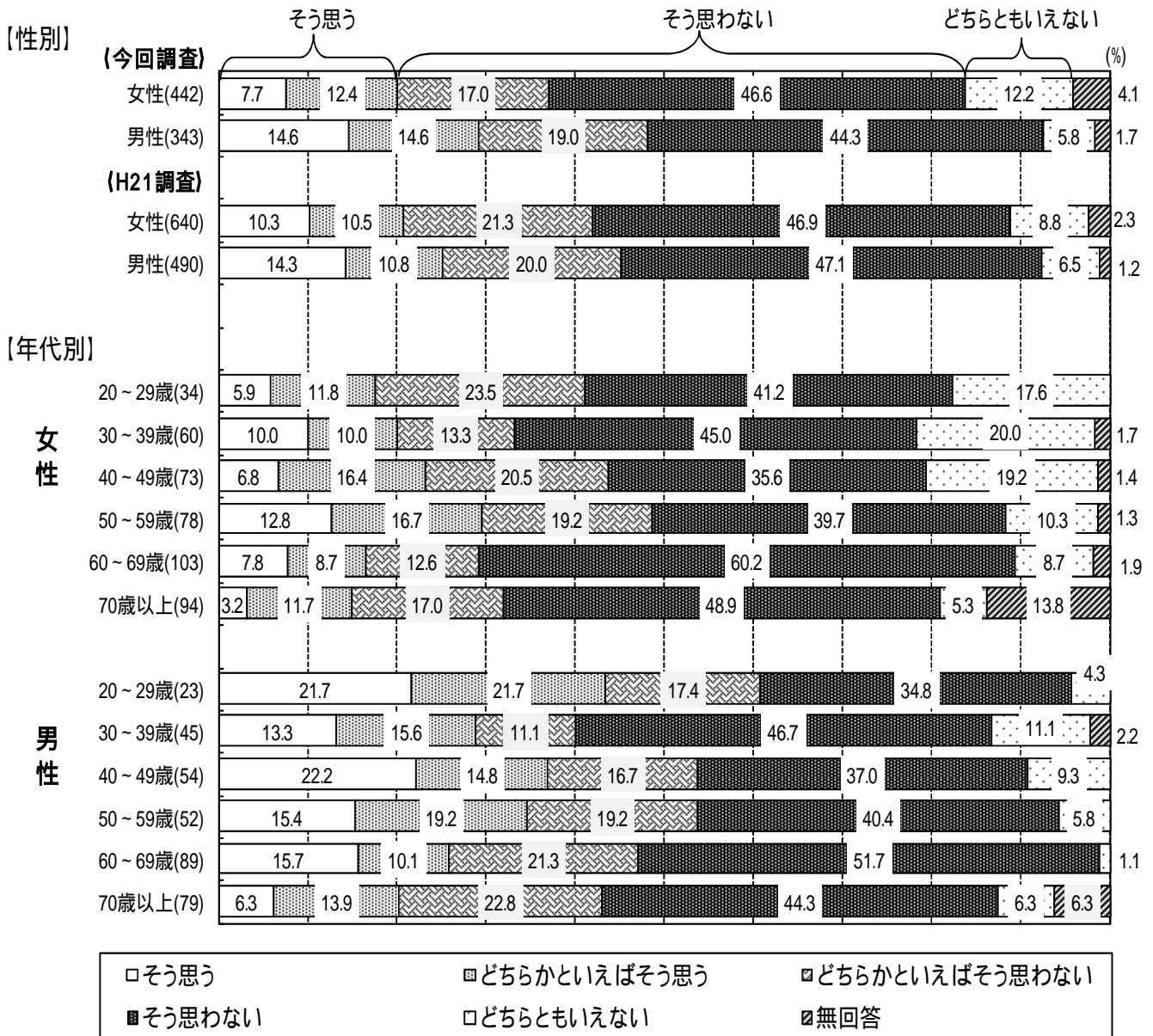
(カ) 子どもを産み育てるのに、戸籍の上で結婚しているかどうかは関係ない

女性の63.6%、男性の63.3%が『そう思わない』と回答している。また、『そう思う』は、男性(29.2%)が女性(20.1%)を9.1ポイント上回っている。

平成21年度調査と比較すると、『そう思わない』と回答した割合は、男女とも低くなっている。

【年代別】

全ての年代で『そう思わない』という回答が、『そう思う』を上回っている。『そう思う』と回答している割合は20代の男性(43.4%)が最も高く、『そう思わない』は女性も男性も60代で7割を超え、最も高くなっている。男女の意識差が大きいのは20代で、『そう思わない』が女性64.7%に対し男性52.2%と、12.5ポイントの差となっている。



家庭生活

(キ) 夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい

『そう思わない』と回答している割合は、女性が38.9%、男性が46.3%と、男性の方が7.4ポイント高い。

『そう思わない』は『そう思う』(女性31.9%、男性31.2%)を女性で7ポイント、男性で15.1ポイント上回っている。

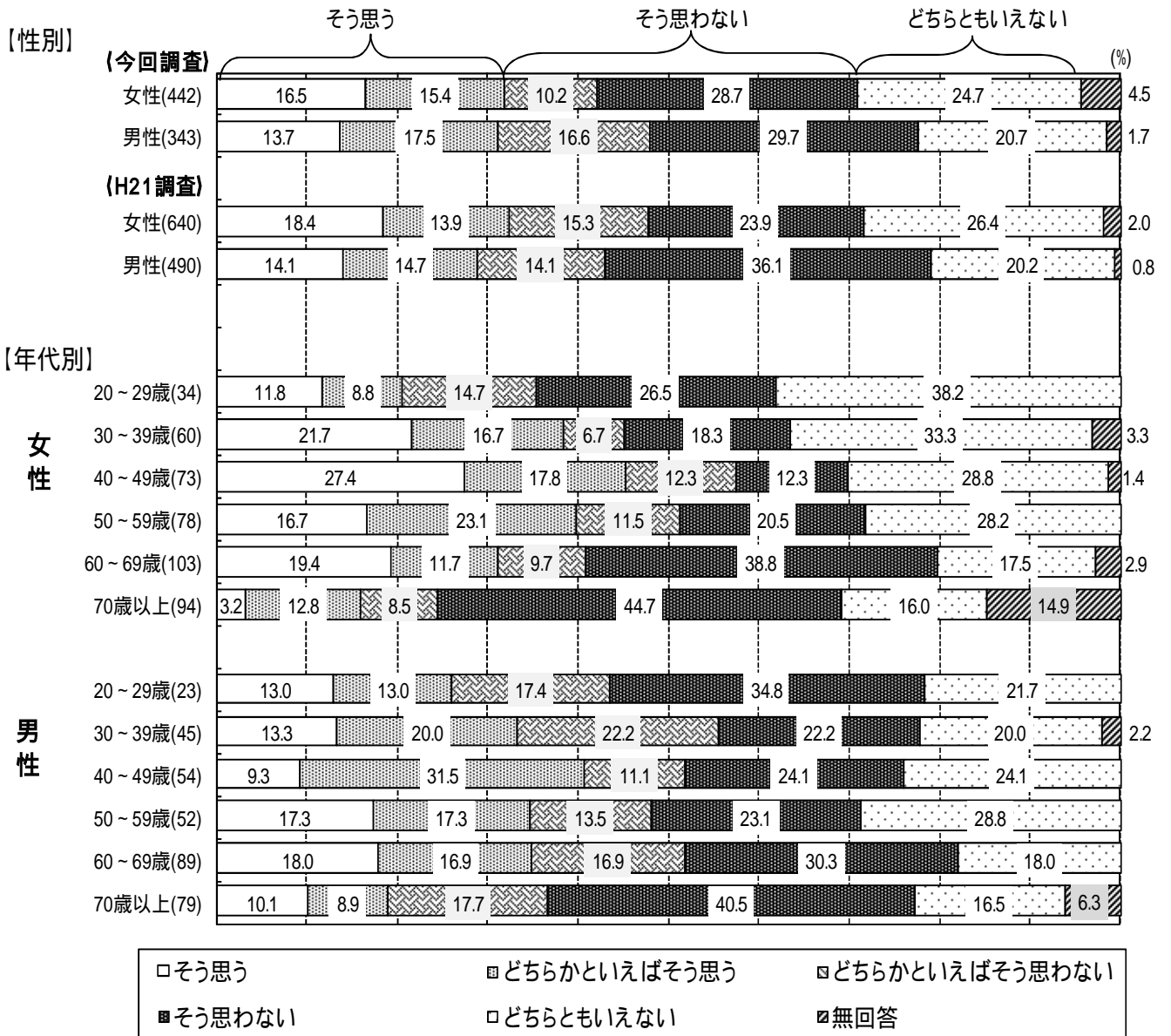
平成21年度調査と比較すると、『そう思う』と回答した割合が、男性では高くなっているが、女性では若干低くなっている。

【年代別】

女性では、30代から50代で『そう思う』が『そう思わない』を上回っている。男性では、40代をのぞいて『そう思わない』が『そう思う』を上回っている。

女性では、『そう思う』と回答している割合は40代で45.2%と最も高く、70歳以上で16.0%と最も低くなっている。

70歳以上の男性は『そう思わない』と回答している割合が58.2%で、全年代の中で最も高くなっている。



家庭生活

(ク) 結婚した以上離婚すべきではない

『そう思わない』と回答している割合が(女性 45.5%、男性 42.3%) 『そう思う』とした割合(女性 27.9%、男性 40.0%)を男女双方とも上回っているが、『そう思う』とした割合は、男性が女性を 12.1 ポイント上回っている。

平成 21 年度調査と比較すると、『そう思う』とした回答の割合は男女とも低くなっており、特に男性では、前回より 9.2 ポイント 『そう思う』と回答した割合が低くなり、『そう思わない』と 『そう思う』の割合が逆転している。

[年代別]

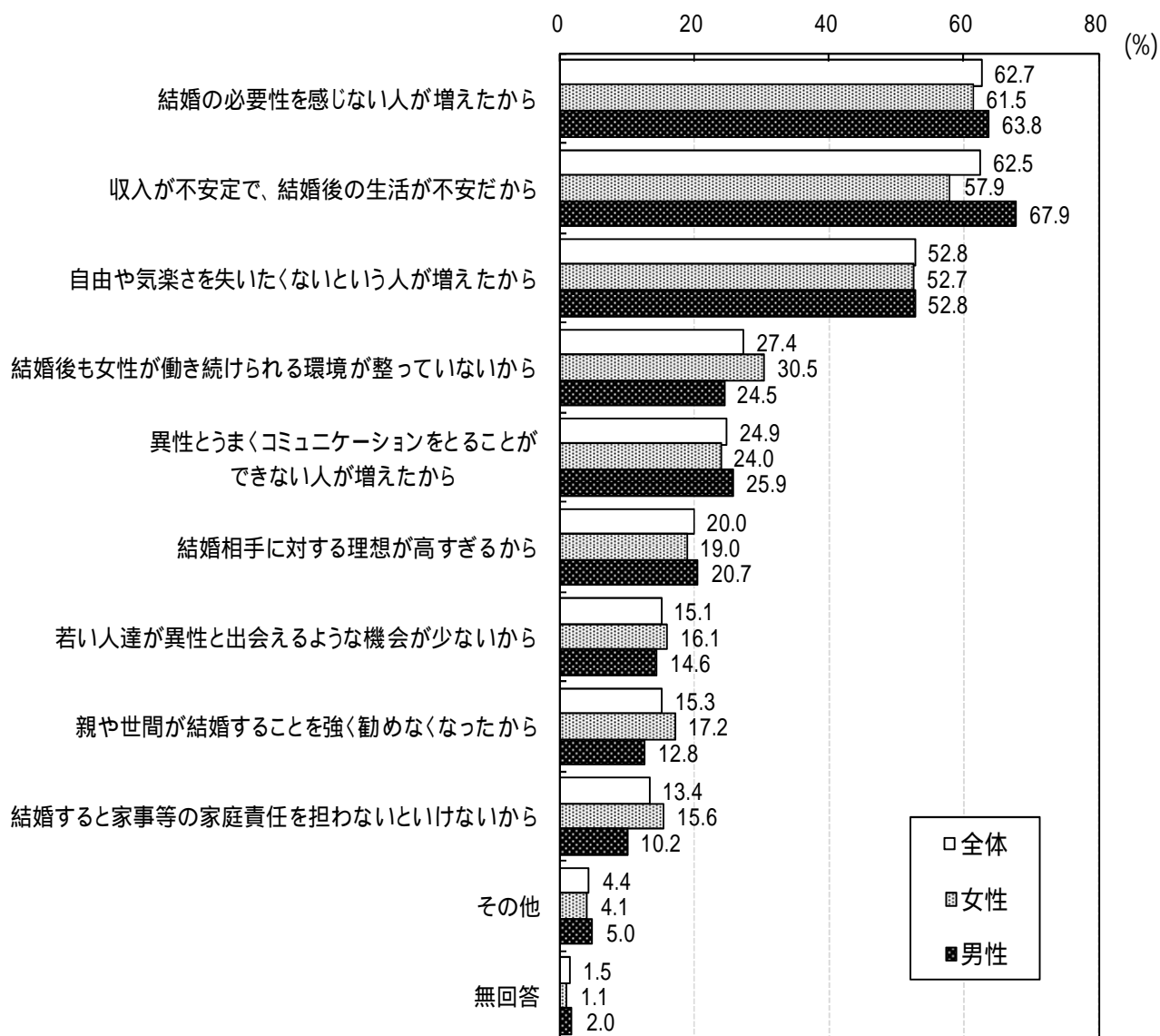
女性では、70 歳以上をのぞいて 『そう思わない』が 『そう思う』を上回っており、20 代ではほぼ同率となっているものの、50 代及び 60 代では、『そう思わない』と回答している割合が、『そう思う』と回答している割合の 2 倍を超えている。男性では、30 代、40 代、70 歳以上で 『そう思う』が 『そう思わない』を上回っており、20 代と 70 歳以上をのぞいて、男性の方が女性より 『そう思う』と回答した割合が高くなっている。



家庭生活

(2) 非婚化について

問4. 最近、結婚しない(したくてもできない)人が増えていますが、その理由は何だと思いますか。
該当する番号三つに をつけてください。



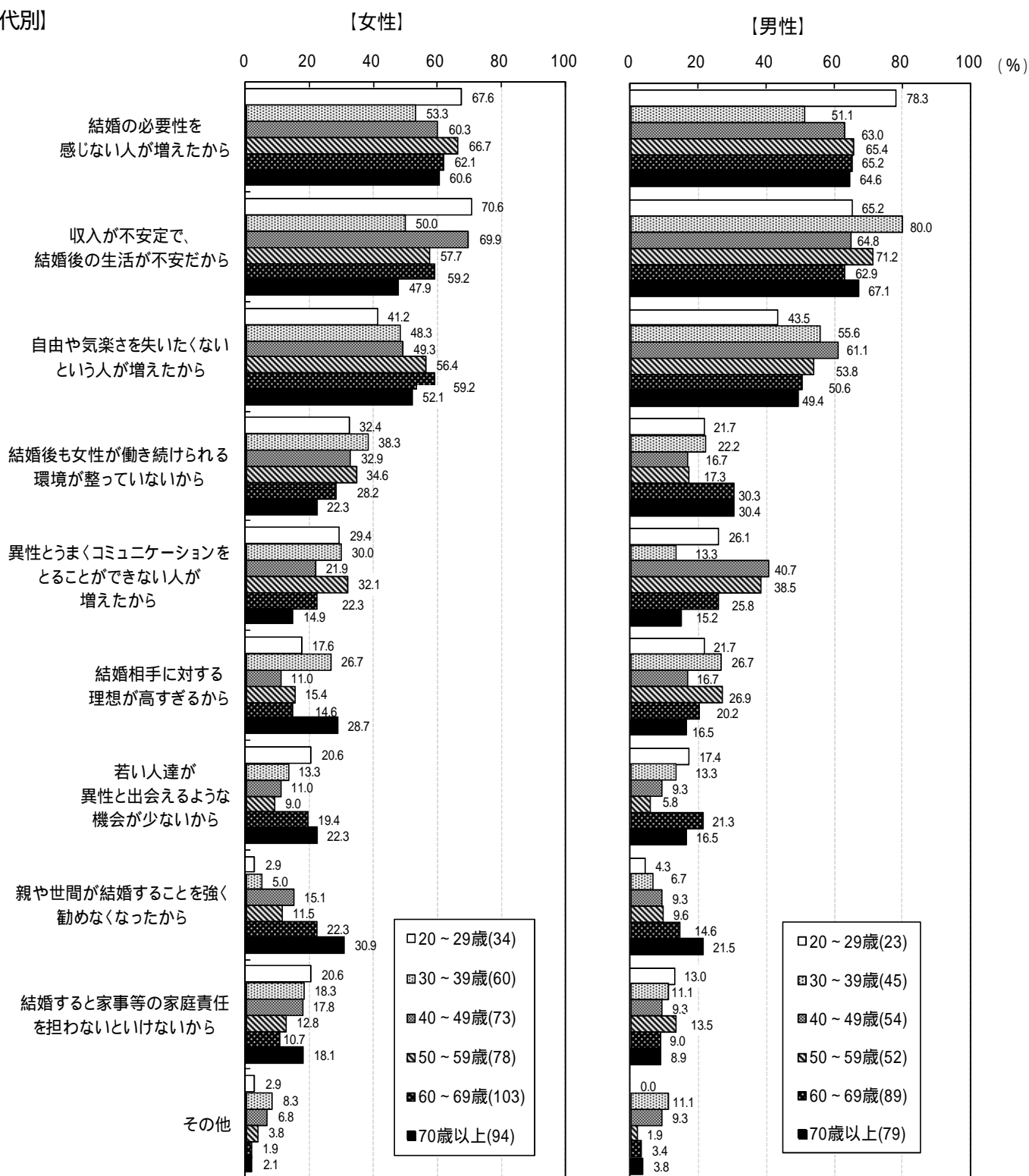
結婚しない(したくてもできない)人が増えている理由について聞いたところ、全体では『結婚の必要性を感じない人が増えたから』(62.7%)との回答の割合が最も高かった。

男女別では、女性は『結婚の必要性を感じない人が増えたから』(61.5%)の割合が最も高く、次いで『収入が不安定で、結婚後の生活が不安だから』(57.9%)となっているが、男性では、『収入が不安定で、結婚後の生活が不安だから』(67.9%)が最も高く、次いで『結婚の必要性を感じない人が増えたから』(63.8%)となっており、『収入が不安定で、結婚後の生活が不安だから』は男性が女性を10ポイント上回っている。

『結婚後も女性が働き続けられる環境が整っていないから』については、女性30.5%に対し、男性24.5%と女性が男性を6ポイント上回っている。

家庭生活

【年代別】



『収入が不安定で、結婚後の生活が不安だから』については、30代男性では80.0%と、他の年代より高くなっており、また20代と40代をのぞいて女性より男性の方が回答の割合が高くなっている。

『結婚後も女性が働き続けられる環境が整っていないから』は全体的に男性より女性の回答の割合が高く、30代女性で38.3%と最も高くなっている。

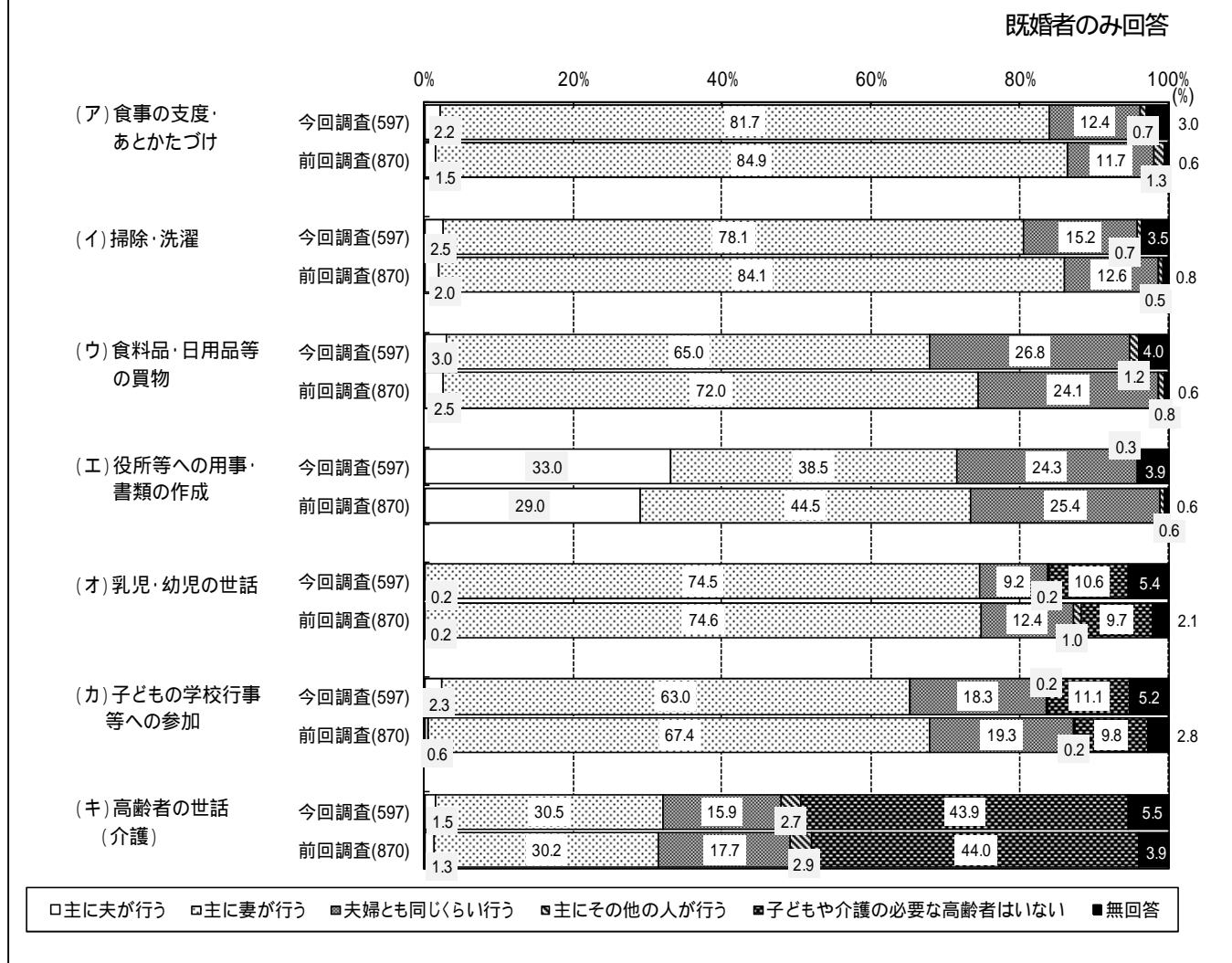
家庭生活

(3) 家事等の役割分担

(ア) 現在の役割分担

問5. あなたのご家庭では現在、家事等の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。

(ア)～(キ)それぞれについて、一番近い番号ひとつにをつけてください。



既婚者に日常的な家庭の仕事7項目について、主に誰が担当しているかを聞いたところ、『主に妻が行う』の回答の割合が高いのは「食事の支度・あとかたづけ」(81.7%)「掃除・洗濯」(78.1%)「乳児・幼児の世話」(74.5%)、「食料品・日用品等の買物」(65.0%)「子どもの学校行事等への参加」(63.0%)で、妻の役割分担となっている割合が高くなっている。

「高齢者の世話(介護)」は該当する者が5割程度となっており、該当者に占める『主に妻が行う』の割合は58.0%、『夫婦とも同じくらい行う』の割合は28.4%となっている。

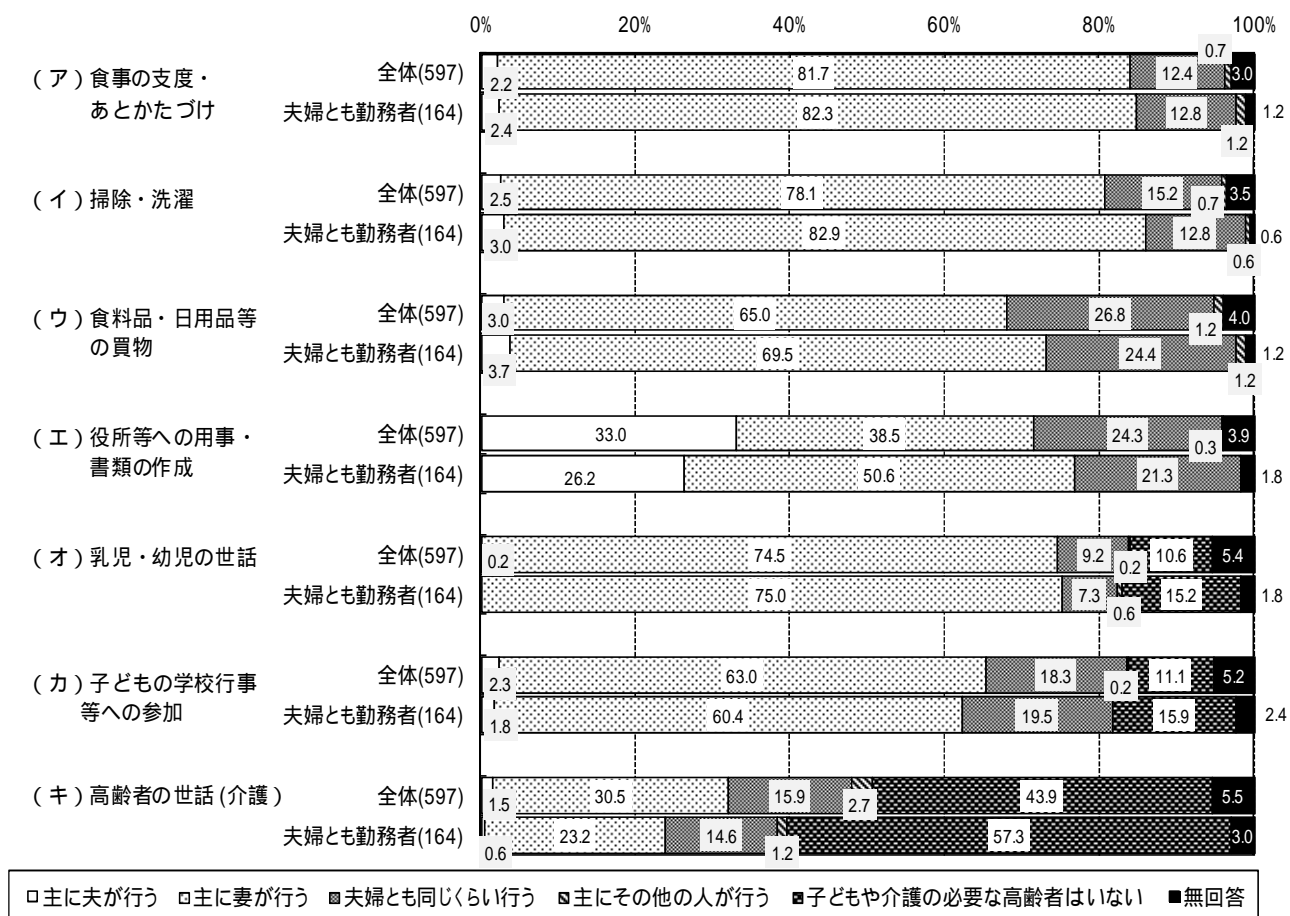
「役所等への用事・書類の作成」については、『主に妻が行う』と回答している割合は38.5%で、『主に夫が行う』が33%、『夫婦とも同じくらい行う』が24.3%となっており、他の項目に比べ、夫の役割分担となっている割合も高くなっている。

【前回調査(平成21年)との比較】

平成21年に実施した調査と比較すると、『主に妻が行う』とした回答の割合が低くなっており、特に「食料品・日用品等の買物」では7ポイント、「掃除・洗濯」「役所等への用事・書類の作成」では6ポイント、低くなっている。

家庭生活

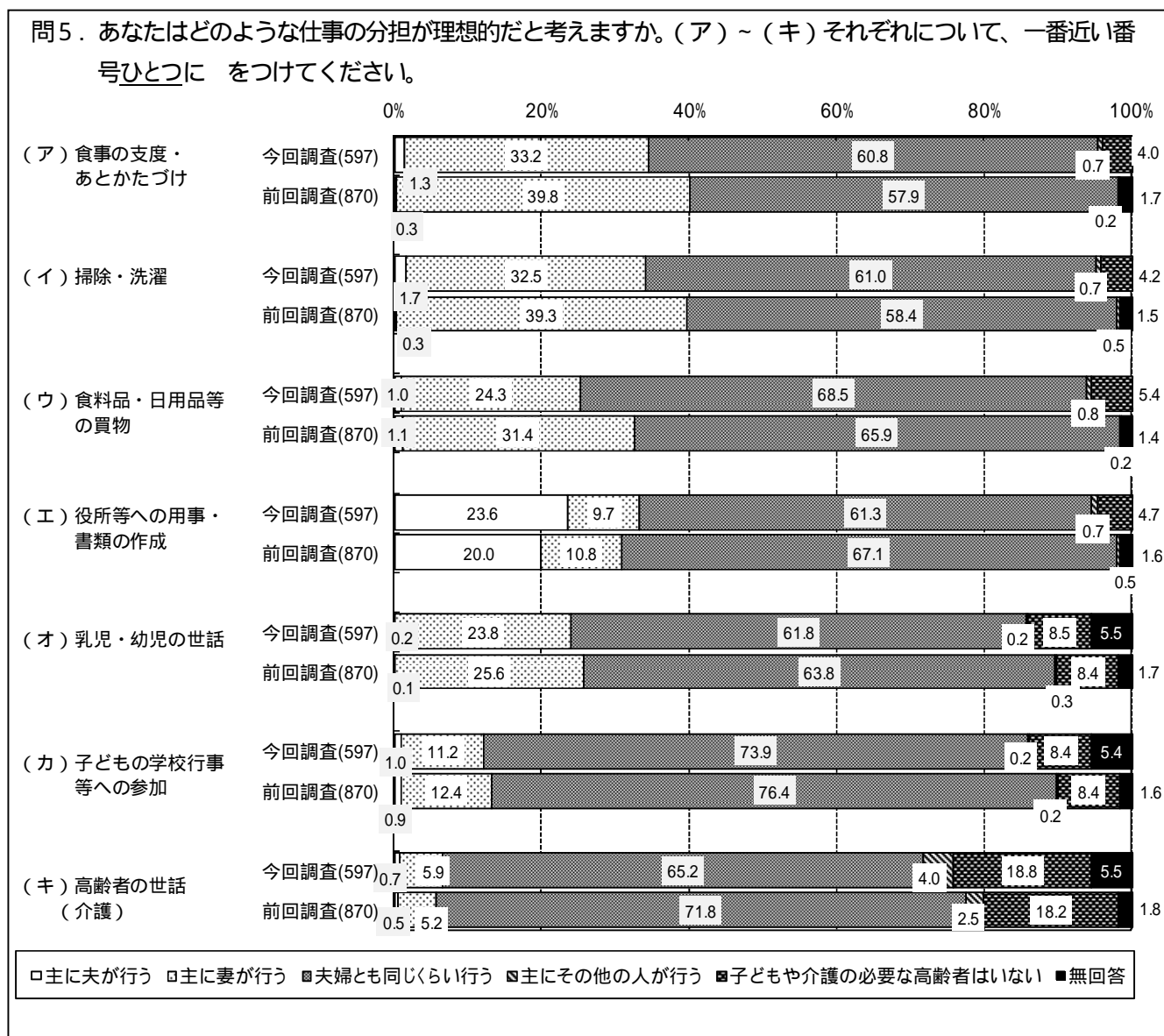
【夫婦とも勤務者の場合】



夫婦とも勤務者である場合の家事分担と、既婚者全体の家事分担の状況を比較すると、どの項目においても『主に妻が行う』と回答した割合が最も高くなっており、共働きの場合においても、夫婦の役割分担はほとんど変わっておらず、夫婦とも勤務者の場合の方が『主に妻が行う』と回答した割合が高い項目も多い。

家庭生活

(イ) 理想の役割分担



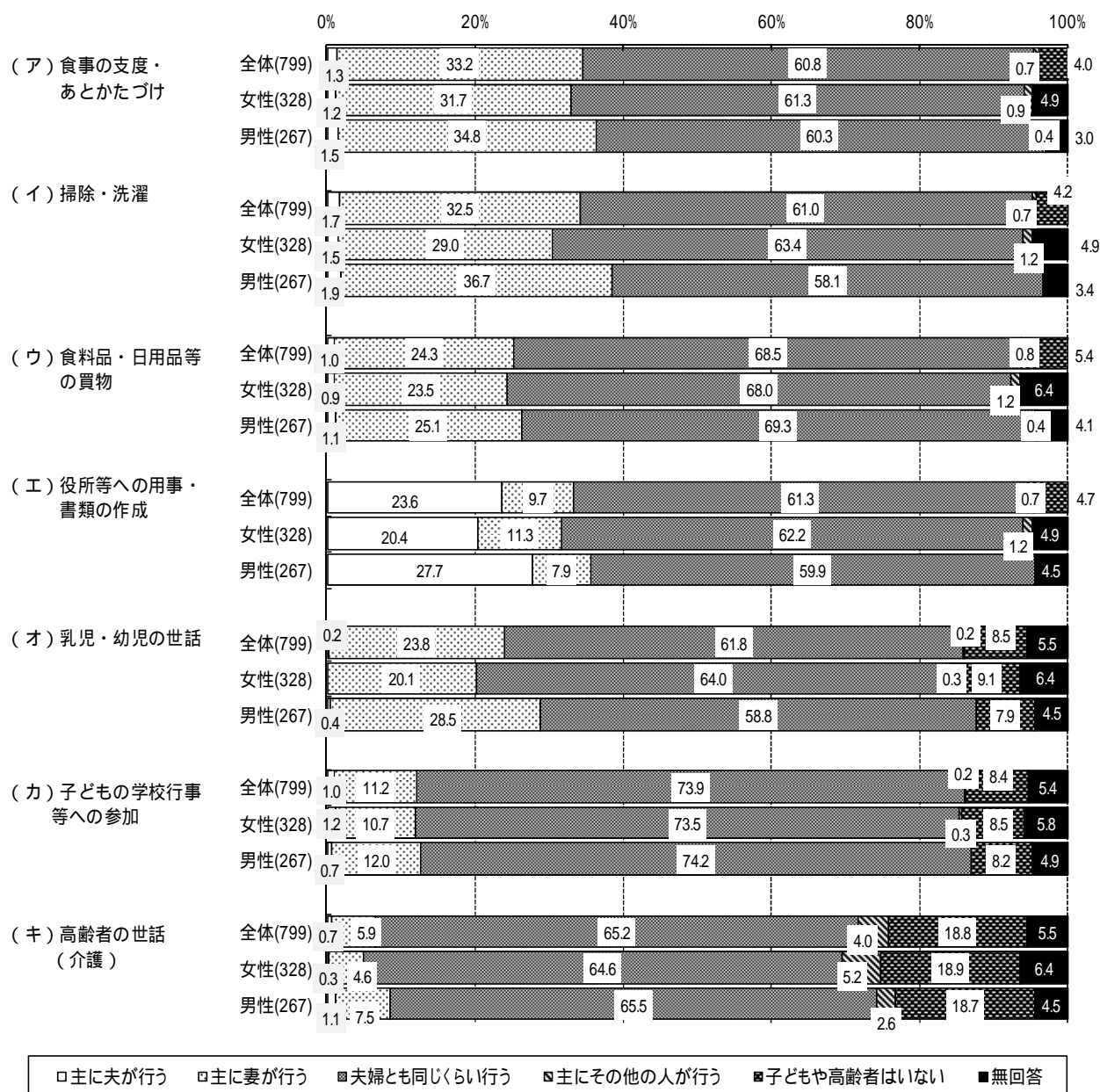
家事等の役割分担に関する理想を聞いたところ、全ての項目で、『主に妻が行う』よりも『夫婦とも同じくらい行う』と回答している割合が最も高くなっている。特に「子どもの学校行事等への参加」(73.9%)で『夫婦とも同じくらい行う』と回答した割合が高い。

【前回調査(平成21年)との比較】

平成21年に実施した調査と比較すると、「高齢者の世話(介護)」を除く項目で『主に妻が行う』と回答している割合が低くなっており、特に「食事の支度・あとかたづけ」「掃除・洗濯」「食料品・日用品等の買い物」で『主に妻が行う』とした回答の割合が低くなっている。

家庭生活

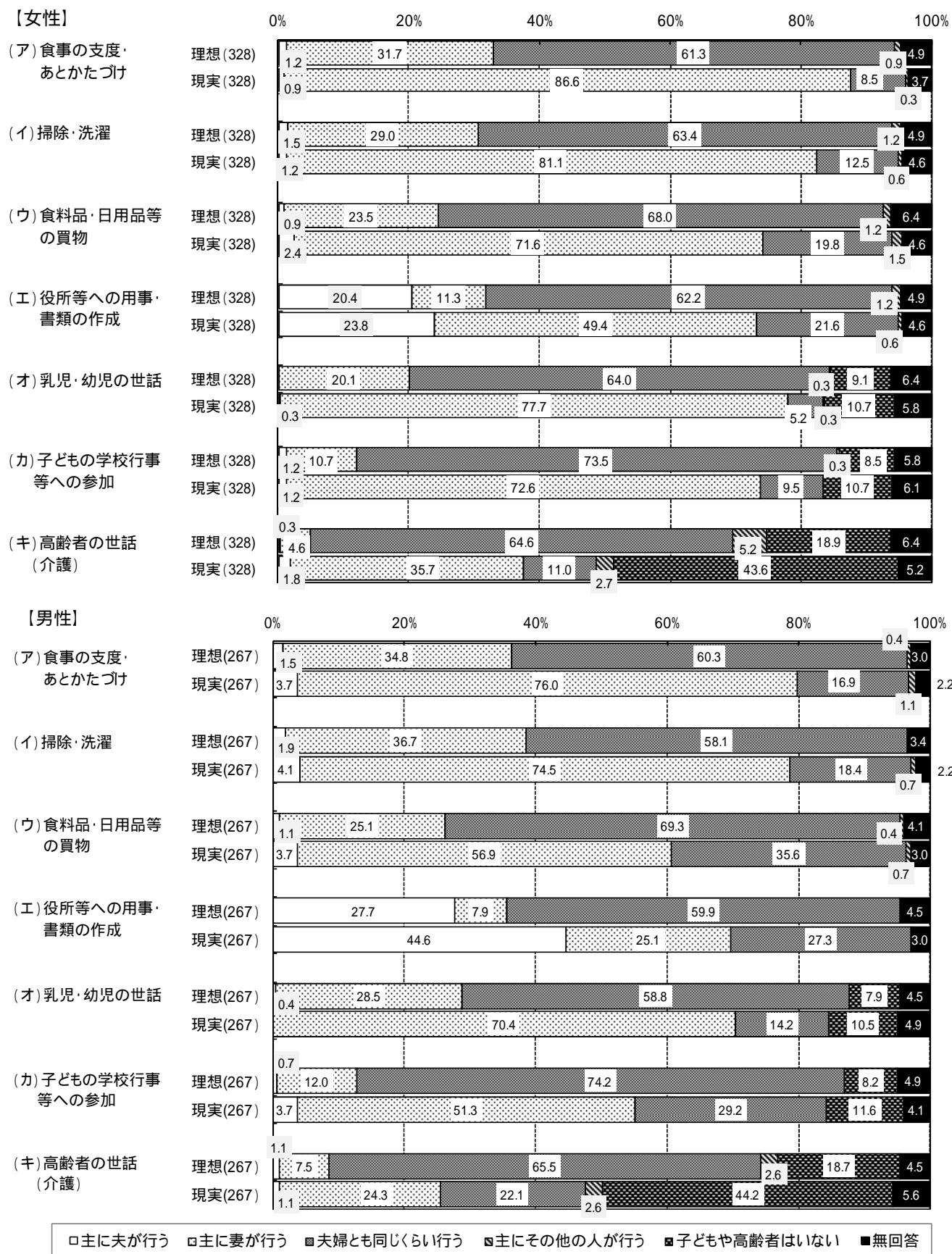
【性別】



男女別では、『主に妻が行う』と回答した割合が、「掃除・洗濯」「乳児・幼児の世話」の項目で、それぞれ7.7ポイントと8.4ポイント、男性が女性より高くなっている。なお、「役所等への用事・書類の作成」については、『主に夫が行う』と回答した割合が、女性より男性のほうが7.3ポイント高くなっている。

家庭生活

(ウ) 理想と現実



男性、女性ともに、いずれの項目でも理想と現実の間に大きな隔たりが認められる。男女とも、理想では『夫婦とも同じくらい行う』の割合が最も高く、現実では『主に妻が行う』の割合が高い。